

## 第47回 健康・医療戦略推進専門調査会に関する意見書

アイパークインスティテュート株式会社 藤本 利夫

多くの企業・スタートアップが集積する湘南アイパークにおいて、エコシステムの形成・運営に携わる立場から以下、気づいたことを記載します。まず、AMEDのこれまでの取り組みについて、アウトカム・アウトプットの両面で数多くの成果が積み上がっていることに、心より敬意を表したいと思います。とりわけ、企業導出やエコシステム形成など、研究成果を社会実装へとつなげる流れが具体的な形で見え始めている点を高く評価しています。その上で実務的な視点から、資料1についていくつかコメントさせていただきます。

**1. 企業導出の「質」とライセンス指標**

企業導出件数として多くの実績が示されているが、その多くは早期段階の共同研究であり、実際に権利譲渡（ライセンス供与）に至ったものは7件にとどまっています。共同研究は重要な入口だが、実用化の進展を測る指標としては、今後ライセンス（権利譲渡・実施許諾）がどれだけ増えていくか、その進捗を継続的に追っていく必要があると考えます。

**2. 世界の潮流を踏まえた戦略的ポートフォリオ**

一方で、世界の製薬産業はデリスクされた後期アセットへの嗜好を強めており、市場の確立した疾患もしくは技術への集中が進んでいます。こうした潮流を前提に、支援する研究対象は、戦略的にポートフォリオを組む必要があるのではないかと考えます。具体的には、次の3つの領域にバランスよく資金を配分し、それぞれに適した指標を設定して追っていくことが重要だと思います。

- (1) 日本が得意とする「真のイノベーション」を、時間をかけて育てる領域
- (2) 市場が求めるアセット・技術を、戦略的に短期で育てる領域
- (3) 希少疾患など、そもそも産業化しにくいですが、AMEDのミッションとして支援すべき領域

**3. イノベーションエコシステムプロジェクトの成長指標**

8のイノベーションエコシステムプロジェクトについては、出口の具体例が見え始めていることが大きな希望です。この成功を継続化する必要があります。ベンチャーの成長を測る指標としては、現在記載されている論文数などに加えて、資金調達額を含めたらどうかと思います。資金調達額は、市場からの評価とベンチャーの成長段階を端的に表す指標であり、エコシステムの実効性を、より実態に即して捉えることにつながると考えるからです。

武田薬品工業株式会社 宮柱 明日香

第3期健康・医療戦略の下、医療分野の研究開発が着実に推進されていることに謝意を表します。加えて、本年の日本成長戦略会議において、「創薬・先端医療」「合成生物学・バイオ」が重点戦略分野に指定され、様々なステークホルダーの皆様との建設的かつ多面的な議論の場が生まれ、製薬企業・業界団体からも参画の機会を頂けたことに感謝いたします。同会議ワーキンググループでも論点となりました、革新的な医薬品の創出およびアカデミア発の優れた研究成果の実用化を促進する観点および、議題（2）令和8年度第2回医療分野の研究開発関連の調整費の配分案に関連し、以下のとおり意見を申し述べます。

本年4月には、AMEDと日本製薬工業協会による試行的な連携であるAND-Eプロジェクトが始動しました。本取組は、AMEDが支援するアカデミア発シーズの実用化に向けた橋渡しを支援するために、製薬企業がこれまでの経験で培った創薬研究のノウハウを投入する第3期健康・医療戦略および成長戦略の推進に資する重要なパイロット的取組みと認識しております。現在は、両者において定期的な進捗確認を行いながら、スピードをもって当該プロジェクトを通じた有望シーズの発掘・育成に向けた作業を進めています。今後、本連携から生み出される有望なシーズを着実に育成できるよう、調整費の機動的な活用や予算の充当を通じて、研究開発の加速を図っていただくことが重要と考えます。

また、アカデミア発シーズの社会実装を更に進めるためには、企業による投資判断が難しいアーリー段階における支援の強化が企業導入の推進に有効と考えます。具体的には、リスク軽減に資する支援策や、マッチングを通じた追加的な資金供給の仕組みの整備など、シーズの成熟段階に応じた切れ目のない支援の充実が求められます。

産官学が緊密に連携し共通の目的に向けて議論し知恵を出し合うことが、我が国の創薬力の強化、研究開発環境と市場の魅力向上に不可欠と考えます。製薬企業としても、今後取り組むべき研究テーマやニーズの提示を含め、こうした取組に積極的に貢献してまいります。